

TOP MESSAGE



現場力を生かしたもののづくりと信頼される企業行動によって 社会の持続可能な発展に貢献していきます

大平洋金属株式会社は、ステンレス鋼の原料となるフェロニッケルを主力製品とし、常に環境・安全に配慮した製造プロセスの維持・改善と高品質な製品の安定供給に努めています。また、製錬工程において副産物として得られるフェロニッケルスラグを製品化し、環境負荷の少ないエコ商品として販売しています。さらには、ニッケル鉱石からの製錬技術を活かしたごみ焼却灰などの再資源化事業を環境に貢献するサービスとして展開し、地域の循環型リサイクルにも貢献しています。

統合マネジメントシステムの発展

当社は、2013年度より品質・環境・労働安全衛生の3つのマネジメントシステムを統合しIMS^{*}として運用を開始しました。2014年度はISOの審査も統合形式で行い、1つのマネジメントシステムとして運用しながら、3つのマネジメントシステムの認証を維持することができました。IMSはあくまでツールとして考えており、IMSを運用することが目的ではありません。今後は、何のためにIMSに取り組んでいるのかも全社員に浸透させ、このツールを使いこ

なし、業務の効率化、品質の向上、環境負荷低減、労働安全衛生の確保に役立てていきます。

※統合マネジメントシステム (Integrated Management System : IMS)

「現場力」で継続的改善を推進

IMS活動は、製造・営業・管理それぞれの現場の社員一人ひとりが知恵を出し、行動する「現場力」によって改善され、発展していくと考えています。

当社の製品品質については、お客様から高い評価を頂いていますが、海外と国内でお客様の要求する品質が異なり、変化するニーズへの対応が常に求められています。そのため当社では、営業担当者と製造担当者が一緒に、お客様のご要望をヒアリングするなどし、規格に対応した製品だけでなく、多様化するお客様のニーズをいち早く感知し、求められる製品の製造に努めています。

環境対策については、当社の事業は多くの電力や化石燃料を使用することから、省エネルギーおよび地球温暖化対策が重要課題と認識し、エネルギー原単位を下げよう、さまざまな観点から省エネに取り組み、2014年度には燃料の一部を環境負荷の少ないLNGに転換するなど対策を実施しました。また、水質汚濁防止のために2013年に導入した排水終末処理施設は順調に稼働しており、基準値を超える排水は全く排出していません。処理水は非常にきれいであり、製造用の水源としての活用も考えているところです。

労働安全衛生については、2014年度も従業員が怪我をするなど、課題がありました。安全に関しては特に、社員一人ひとりの意識向上が重要であり、ルールが作られた理由や経緯を含めて教育し、浸透させていかなければならないと考えています。また、会社にはさまざまな世代の社員がおり、育ってきた環境も異なるため、背景・状況に応じ、きめ細かい教育訓練を実施する必要があると考えています。最近若手社員の危険に対する感受性が下がる傾向

がありますが、これに対し危険体感教育が効果を上げています。今後も、現場力の強化育成に力を入れ、安全風土を醸成し、ゼロ災害を目指します。

社会から信頼される企業となるために

社会から信頼される企業となるためには、しっかりとした企業統治、コンプライアンスが重要です。当社は、コンプライアンスは「当たり前」のことと認識し、これを徹底する体制を構築し実践しています。

さらに、地域社会の皆さまからの信頼を得ることも大事です。地元サッカークラブであるヴァンラーレ八戸に、当社の所有する練習場を使っていただく等の支援や、三陸復興国立公園である種差海岸の清掃をはじめとする地域の清掃活動への参加、八戸三社大祭、八戸えんぶりなどの地域イベントにも社員が積極的に参加し、地域と一体となり、さらなる発展に貢献するよう努めています。

世界の急速な変化に対応し、 ピンチをチャンスに

世界の経済情勢により当社の置かれる事業環境は厳しさを増し、大きく変化しています。当社はこれまで何度も社会の変遷に柔軟に対応し、乗り越えてきました。先人たちに倣い、私たちも事業継続のため、あらゆる知恵を絞り、新たな戦略を立て、行動していく必要があります。IMSを最大限に活用し、トータルコスト削減、確実な資材調達、製錬技術のさらなる改善・革新など現場力をフルに活かして取り組んでいかなければなりません。

当社を支えているのは高度な技術力と現場力です。それによって厳しい事業環境をチャンスに変えて事業を発展させ、また、IMS活動を中心に内部統制を強化し、企業としての社会的責任を果たしていく所存です。

代表取締役社長 佐々木 朗